

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート							No.	38-1
PDCA	主要事業名	病院経営事業	部課名	半田病院管理課	担当	竹内		
					内線	22-9881		
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 3 - 3 - 2 単位施策： 半田病院							
	全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 27,772,149 千円							
	会計 半田病院事業会計 歳出科目：							
	事業概要等	事業概要： 知多半島医療圏内で唯一、救命救急センターを有し、高度急性期医療を担うほか、災害医療や周産期・小児医療等の政策的医療の提供も積極的に行っている。また、がん診療連携拠点、臨床研修、地域医療支援病院としての指定も受け、圏域における中核的な役割を担っている。						
		事業目的： 市民の福祉、健康保持に必要な安全で安心かつ質の高い医療を提供する。						
		事業内容： 救急・がんなどの高度医療や、地域の医療機関等との役割分担、連携の中心的な役割を果たすとともに、効率的で健全な経営を継続することで安定した医療を提供する。						
		問題点・課題等： 半田病院と地域の医療機関との医療機能の分化・強化・連携をさらに推進し、地域全体で高度急性期から回復期、療養期までの総合的な医療体制を構築するとともに、新たな感染症発生の状況下でも持続可能な地域医療体制を整備することが必要である。また、医師および看護師を安定して確保し、質の高い医療を継続して提供することが求められている。						
	予算額	主要事業とする理由						
	27,772,149 千円	健全経営のもと地域の基幹病院としての役割を果たすことが、地域医療の安定、そして地域住民の安心につながるため。						
	財源内訳	得られる成果						
	市費 783,887 千円 国費 10,204 千円 県費 19,022 千円 その他 26,959,036 千円	地域医療機関との連携のもと、高度急性期から療養期まで切れ目がなく、質の高い医療を継続して提供できる。						
目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位			
経常収支比率	実績値	105.7	107.4	—	%			
	目標値	101.0	101.0	94.0	%			
医業収支比率	実績値	101.9	103.8	—	%			
	目標値	100.0	104.0	102.0	%			
その他	実績値							
	目標値							
D 実績 得られた成果と	決算額	得られた成果						
	25,682,561 千円	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う社会活動の正常化により、回復基調にある医療需要に対し、第3次救急の病院機能を維持し、地域の基幹病院としての役割を全うした。						
		医療体制の正常化も進む中で、地域の医療機関との連携を図ることで紹介率は85.7%（前年度比+4.2%）、逆紹介率は110.3%（前年度比+4.7%）となり、新規入院患者の増や平均在院日数の短縮につながった。						
		成果指標				令和5年度	単位	
	経常収支比率	実績値	99.2		%			
		目標値	94.0		%			
医業収支比率	実績値	104.9		%				
	目標値	102.0		%				
C 課題の整理	事業の評価・課題	A						
		新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う社会活動の正常化により、回復基調にある医療需要に対し、第3次救急の病院機能を維持し、地域の基幹病院としての役割を全うした。医療体制の正常化も進む中で、地域の医療機関との連携を図ることで紹介率は85.7%（前年度比+4.2%）、逆紹介率は110.3%（前年度比+4.7%）となり、新規入院患者の増や平均在院日数の短縮につながった。収支状況については、新病院建設の影響により、経常収支及び純利益は赤字に転じたが、医業収支は昨年度を上回る黒字（14年間連続）となり、当初予定した赤字を大幅に縮減した。今後は、新病院の開院に向けて一層の経営基盤強化に取り組むとともに、常滑市民病院との経営統合、地方独立行政法人化に向けた両院の診療機能分担、職員の人事・給与制度・事務システム構築などを行っていく必要がある。						
A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性	改善推進						
		令和7年4月の新病院開院に向け、必要かつ最適な投資を行うとともに、経営統合する常滑市民病院との機能分担や診療体制の合理化を推進することで、地域に求められる医療、より質の高い医療を提供することにより収益を確保していく。						
	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減 余地	ある ※手段の変更			
②市民ニーズ 高い		⑤成果向上の余地 ある	⑧受益者負担適正化余地	ない				
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない						

目標項目（予算計上時に作成）

予算見積書で活用

主要施策の成果報告書で活用

評価項目（決算時に作成）